

「けつたくそが悪い、寝てこまそ」

「コレお客さんよ、此んな所へ寝なはつたら邪魔になるがな、退きなはれ」

「コラ、何を仕やがんねん、人の頭を殴りやがつて」

「お客さんよ、船頭は仕て居りますがお客さんの頭を殴いたりはしません」

「嘘つけ、今殴りやがつたわい」

「殴きや仕まへん、邪魔になるので退きなはれと突きやア、お前の頭が鳴つたんじやろう」

「コラ、人の頭を殴つておいて、鳴つたんぢやろうとはどうや」

「殴きや仕まへん、退きなはれと突きやお前の頭が鳴つたんぢやろ、宜う鳴る頭」

「コラ、宜う鳴る太鼓みたいにぬかしやがる、殴つたわい」

「お前さんは殴つたと云ひなさる、俺は殴らんと云ふ、お前さん殴つたと云ひなさるなら殴られたと

云ふ書き證文を持つとるか、書き證文を……」

「コラ、頭殴られるのに證文書いて殴られる奴があるかい」

「角よ」

「オーウ」

「オーウぢや無い、何時までお客をとらまへてからかふとるか………お客さんよ國から出て来て

まだ間が無い者ぢやでう堪忍まいよ」

「お前の様にやさしゆう云ふてくれたらえゝのに、人の頭殴つて居いて宜う鳴る頭やと云ふよつてに腹が立つねん」

「それぢやから堪忍まいよと云ふのぢや」

「さあ、そう云ふてくれたらえゝのや、錢を出して乗つたら客や、その客の頭を殴ると云ふことがあるか」

「それぢやから堪忍まいよと云ふのぢや、錢を出すと云ひなさるが此の船は施行船ぢやござんせんで錢はいたゞきます、堪忍まいよと云ふに堪忍られんか、堪忍られんなら堪忍られんと吐してみくされ、頭カチマクぞ」

「ウオー恐やの、挨拶人の船頭の方が怖い、頭カチマクと云ひよる」

「お前が悪いがな、船頭の通り道に寝て居るよつてに」

「お前に叱られるは、船頭に殴られたら私の立瀬が無い」

「そないに怒りな、あないに云ふてるが、馬方船頭お乳の人と云ふて言葉は荒いが氣達は宜え、あないごつ／＼云はんとこの大きな船が動かされへん、馬方でも馬の手綱を持つたら年中怒つてる、ドウ、長い顔さらして張倒すで、奴畜生め臍節歪んでるがな、宜うあんな無茶云ひよる、昔から馬の